

# 船橋市立医療センターNews No.11

●発行年月日/平成24年1月1日 ●編集/船橋市立医療センター広報委員会 ●発行責任者/院長 高原 善治  
〒273-8588 船橋市金杉1-21-1 ☎047-438-3321(代) <http://www.mmc.funabashi.chiba.jp/>



「鶴居村の丹鳥」(北海道) 当院職員撮影



## 新年を迎えて

船橋市立医療センター院長 高原 善治

新年、明けましておめでとうございます。昨年は3.11東日本大震災を経験し、また経済面でも異常な円高、タイの大洪水による日系企業の大損害と日本は苦境に立たされ続けた年となってしまいました。医療面では、今後10年間で加速度的に進むとされている高齢化社会に対応し少ない医療資源を効率よく利用するために、各医療機関が分担してその使命を果たし、連携し合って医療を行っていくことが必要となってきております。当院は救急救命センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院として急性期医療を行う病院の使命と役割を果たしてきました。特に悪性腫瘍は現在の死因の1位であり増加傾向にあります。これに対して診断、治療法の進歩も著しく、当院においても病巣の切除、放射線治療、化学療法と積極的な治療を行っております。あわせて、終末期に対する緩和治療も行っております。今回の特集では最近の抗がん剤治療について紹介させていただきます。死因の2位は心疾患、3位は脳血管疾患と続きますが、これらの疾患についても診断からカテーテル治療、手術治療、薬剤治療、リハビリテーションを一連の体系で対応する体制が整っております。また、他の医療機関との連携を進め、地域で効率良くかつレベルの高い医療を提供していくことを目標に邁進を続けてまいります。

今年も職員が皆さんとも協力し合い、災害への対応から、経営面での改善、医療の質の向上を図っていく所存です。

### 目次

院長あいさつ	1	多田田弘士診療局技監が学術奨励賞を受賞!!	5
抗がん剤治療～分子標的薬～	2～3	循環器内科 沖野晋一副部長が優秀論文賞を受賞!!	5
診療科紹介 皮膚科	4	当院における地域医療連携	6
救急医療	4	糖尿病看護外来始めました	6
		第8回公開医療講座/職員募集/成果発表会を開催	7
		外来担当医師一覧表	8



# 抗がん剤治療

## ～分子標的薬～

### 分子標的薬とは？

呼吸器内科部長 中村 祐之

地域がん診療連携拠点病院である当院では、大腸がん・乳がん・腎細胞がん・肝細胞がん・非小細胞肺がん等のがん治療の際に「分子標的薬」が用いられることがあります。これまでの抗がん剤とは、全く異なるメカニズムで働く分子標的薬が本格的に使われ出して、既に10年が経ち、がん治療の重要な一角を占めています。

従来からの抗がん剤は、核のDNAレベルで細胞の分裂・増殖過程を阻害することで、増殖の早いがん細胞を殺します。とくにがん細胞に的をしぼって攻撃するわけではないので、他の正常細胞も傷害を受けました。

これに対して分子標的薬は、がん細胞の増殖や浸潤、転移に関係する分子を標的に、その働きを阻害することによって、がんの増殖や進展を抑えるのが特徴です。そのため、がん細胞だけを狙い撃ちし、正常細胞への影響が少ないので、それだけ薬による副作用も少ないと期待されました。

当初は、夢のがん治療薬といわれた分子標的薬も10年が経ち、多くの分子標的薬が登場し、長所短所が明らかにされつつあり、今後はより効果的な使い方を求めて新たな時代に入ろうとしています。今回の医療センター News では、これら分子標的薬を使用している診療科に概略を説明していただきます。



### 肺がん

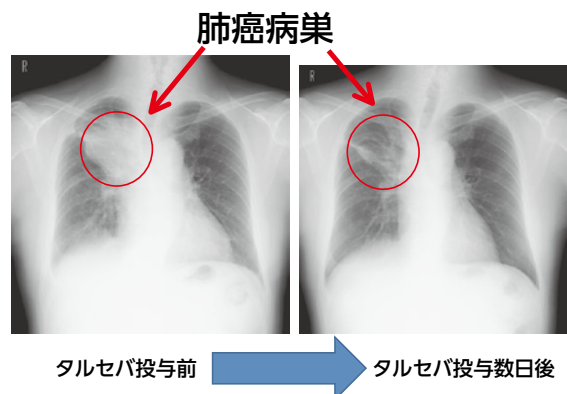
呼吸器内科部長 中村 祐之

現在、肺がんにも認可されている分子標的薬は「イレッサ」「タルセバ」「アバスチン」の3種類です。地域がん診療連携拠点病院である当院の呼吸器内科には肺がん患者さんが多数紹介されてきており、これら分子標的薬を使用している患者さんが増加しています。

「イレッサ」「タルセバ」は上皮成長因子受容体(EGFR)という分子をターゲットにした分子標的薬です。近年、患者さんから採取したがん細胞のEGFR遺伝子を調べることによって、あらかじめ効きそうな人と効かなそうな人を見分けることが可能になってきています。提示した写真のように、有効な場合には急速にがん病巣の縮小が見られ、症状も劇的に良くなります。

しかし、その反面、分子標的薬が決して「夢の薬」ではないこともはっきりしてきました。従来型の抗がん剤にあったような副作用は少ないのですが、多彩な副作用が出現することがわかってきています。なかでも、「イレッサ」が致死的な間質性肺炎を起こしうることは広く報道され知られるところとなりました。

当科では、肺がん細胞の遺伝子検索をできる限り行い、また、副作用を起こしそうな要因がないかを十分に検討して、分子標的薬の長所・短所を説明の上、分子標的薬の使用を開始しています。また、「イレッサ」「タルセバ」で起こりうる皮疹に関しては、当院皮膚科医師に診療依頼をして専門的立場から適切なサポートを受けられるようにしております。このように、患者さんが分子標的薬の恩恵を十分に受けられるよう配慮した診療を心がけています。



現在大腸癌における分子標的薬を用いた治療として、ベバシズマブ、セツキシマブ、パニツムマブの3種類の薬剤が、手術で切除不能な大腸癌や手術後の再発症例の治療に使用されています。当院においても、3種類の薬剤を用いて治療を行っています。

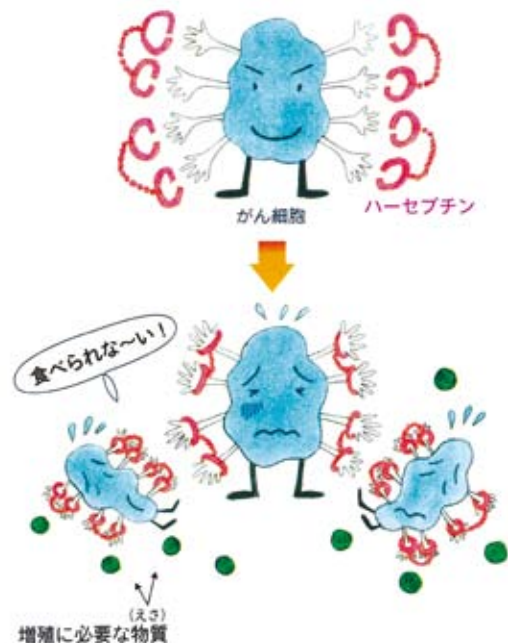
ベバシズマブは世界発の血管新生阻害剤で、複数の抗がん剤を使用する治療法と一緒に使用することで大きな治療効果が得られます。この薬を単剤で使用しても治療効果はありません。高血圧、出血、消化管穿孔などの副作用がみられる事があります。

セツキシマブ、パニツムマブは癌細胞の上皮成長因子受容体（EGFR）に結合してその働きを阻害し、癌の増殖を抑えるモノクローナル抗体です。セツキシ

マブは組み換え型ヒト・マウスキメラモノクローナル抗体で、パニツムマブはヒトモノクローナル抗体です。日本での使用が可能になったのがセツキシマブ2008年（平成20年）、パニツムマブ2010年（平成22年）と海外に比べ遅れていました。

ベバシズマブと同様に複数の抗がん剤を投与する治療法と一緒に使用されることもあれば単剤で使用しても治療効果が得られます。しかし、癌細胞の遺伝子に変異があると有効な治療効果が得られないため、使用に際しては遺伝子変異の有無の検査が必要になります。本来は、癌細胞に特異的に作用するため正常細胞への影響は少ないと考えられていますが、ざ瘡様皮疹（ニキビの高度な状態）などの皮膚障害が出現します。

乳がんは、局所療法（主に乳房やリンパ節などに対する手術・放射線治療）と、全身療法（薬の治療）を組み合わせ治療していきます。全身療法に用いる薬にはたくさんの種類があり、大きく分けると「ホルモン療法」と「抗がん剤」の2つの柱があります。いわゆるホルモン陽性乳がん（女性ホルモンが作用して大きくなるタイプ）には、ホルモン剤（女性ホルモンを抑える薬）を使用します。ホルモン剤が効かないがんや、さらに強い治療を要するがんには、抗がん剤を使います。従来の抗がん剤は、がんを攻撃するとともに、正常な細胞にも害を与えて副作用が出ることがあるのが欠点です。近年新しく登場してきた分子標的薬は、正常細胞はあまり傷つけずにがん細胞を狙い撃ちしてくれる画期的な薬で、乳がんの治療では、「ハーセプチン®（トラスツズマブ）」が有名です。もともと悪性度が高く、治療成績が悪いとされてきた、HER2乳がん（HER2たんぱくを豊富に持ったタイプの乳がん）に対して、特異的に効果を示す薬です。HER2たんぱくは、がんが大きくなるためのえさを取る「手」に例えられ、ハーセプチンはいわば、この手に手錠をかけてがんを兵糧攻めにしてやっつけるという働きをします。この薬によって、悪性度の高いHER2乳がんの治療成績が飛躍的に向上しました。このほか、今まで大



腸がんや肺がんに使われていた「アバスタチン®」という分子標的薬もこの秋から乳がんで使用できるようになり、患者さんひとりひとりに合わせたオーダーメイドの治療を行なっています。今後、さらにいろいろな分子標的薬の導入が期待されています。

## 診療科紹介

### 皮膚科

船橋、鎌ヶ谷、習志野市周辺には皮膚科専門医の先生が多数いらっしゃいます。しかし、入院や手術ができるような設備が整った皮膚科は少ないのが現状です。当院では入院や手術など設備の整った病院でしかできないような治療を主体に行っています。特に痛い、苦しい、つらいなど症状の重い患者さんや入



宮川 健彦 医長

院中の患者さんを優先して診療していますので、

比較的軽症な患者さんには、お待ちいただくことになってしまいます。外来診療時間は、月曜、火曜、木曜の午前中になっております。

当院の皮膚科で治療している代表的な疾患は、乾癬、重症薬疹、重症じんましん、水疱症、膠原病、皮膚腫瘍、皮膚癌などです。医者・患者さん・ご家族の方・医療スタッフがお互いに信頼できる様な関係を築き上げていきたいと思

### 第8回

## 救急医療

### 救急医療における泌尿器科

泌尿器科副部長 武田 英男

泌尿器科で扱う病気のうち、救急外来を受診される数が最も多いのは、何と言っても尿路結石が原因の腰痛、腹痛、血尿、発熱でしょう。尿路結石は、結石のある場所で腎結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石と呼ばれます。救急外来に腰痛、腹痛で受診された時は、様々な痛み止めの薬を使用し、痛みをやわらげます。発熱を伴えば腎盂腎炎の合併を考慮して抗生剤の投与をします。しかし、重要なことは、救急外来を受診しなくて済むように、普段から結石ができないように生活することが重要です。そのために、次のことを心がけましょう。

①規則正しい食生活：暴飲暴食を避け、バランスの良い食事を心がける。夕食後から就寝まで最低4時間はあける。

②水分摂取：心疾患などの合併症がない場合、1日2,000ml以上の尿量を確保する。

③尿酸：食事内容を再検し、摂取制限（ほうれんそう、たけのこなど）に努める。

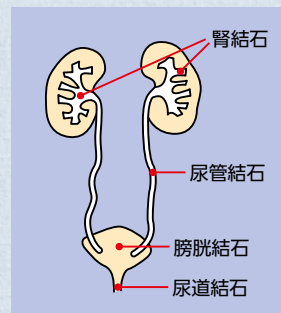
④カルシウム：不足しないように、摂取する。牛乳、乳製品、小魚、海藻の摂取。

⑤塩分：減塩に努める。（塩分を摂りすぎると高血圧を助長させ尿中のカルシウムの排泄を増加させます。）

⑥マグネシウム：野菜、海藻、青身の魚を摂取する。（ただし、青身魚の取りすぎはよくない。）

⑦比較的プリン体を多く含む食品：牛肉、牛タン、肝臓、ベーコン、ひらめ、するめいか、あじ干物、えび、大豆、干しシイタケ、などのとりすぎに注意する。

※当院では結石の破碎装置がありませんので、診断および一時的な症状緩和まで行い、治療は破碎が可能な近医にお願いすることになります。

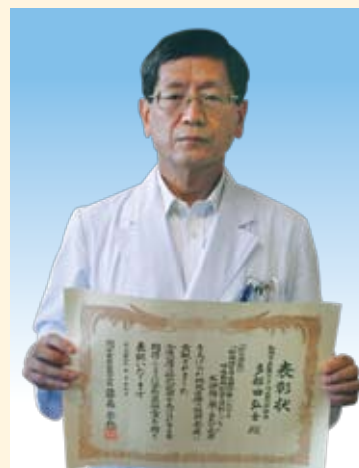


## 多部田弘士診療局技監が 社団法人千葉県医師会 学術奨励賞を受賞！！

当院の多部田弘士診療局技監が、「船橋地区呼吸器診療における呼吸器検討会の役割について」と題する研究報告を社団法人千葉県医師会に提出し、学術奨励賞を受賞しました。

呼吸器検討会は、患者さんに少しでもよい医療を提供するために医師会と当院の医師が共同で勉強する会です。現在、市内の呼吸器患者さんは、地元の主治医からスムーズに当院を紹介して頂き、専門的診断・治療を受けた後、再び紹介元の先生に戻れるという理想に近い病診連携が行われています。

多部田技監は、「これまでの17年間の呼吸器検討会の活動がこのシステム作りに貢献したと評価されました。継続は力なりと言いますが、今後も弛まず地域医療に尽力したいと考えます。」と新たな決意を述べました。



## 循環器内科 沖野晋一副部長が 日本心血管インターベンション治療学会 優秀論文賞を受賞！！



当院の沖野循環器内科医師は、平成23年7月に開催された「日本心血管インターベンション治療学会総会」において、「高尿酸血症が慢性腎臓病患者を有する冠動脈治療後患者の予後を予測する危険因子である」という内容の論文を発表し、2010年度（平成22年度）優秀論文賞を受賞しました。

受賞した沖野医師は、次のように今後の抱負を述べました。「当院のように多くの患者さんに来院いただく病院では、得られた知見を日本や世界の先生方と議論していくことも役割の一環であると、私が研修医の頃から指導されてきました。診療の内容や結果を科学的に検証し、それを生かしてより良い治療を皆様に提供できるよう努力していきたいと思えます。」

当院は省エネに取り組んでおります。ご協力お願いいたします。

# 当院における地域医療連携

## ～船橋市医師会・船橋市立医療センター合同研修会～

船橋市医師会・船橋市立医療センター合同研修会は、地域医療連携の一環として当院と船橋市医師会が合同で毎回テーマを定め開催しております。

昭和59年6月29日に第1回の研修会を始めてから、平成23年12月5日で141回を数えます。

参加者は、地域の医師、当院の医師、看護師や各部門の職員、市の健康施策の担当者、地域の医療関係者などで、テーマによって勉強したいと思う方が自由に参加できます。

当院は、開設当初から地域医療の中核的な病院となるべく船橋市医師会をはじめ地域の医療機関と密接な連携を図ってきました。特に、当院が開設された昭和58年10月の1ヵ月後の11月には船橋市医師会との協力関係の下、医師会の医師と当院の医師が共同で診療する開放型病床をスタートさせており、これは、現在も継続しております。

地域医療に関する様々な課題については、船橋市医師会と協議する機関として「医療センター・医師会連絡協議会」を設け、年5回程度討議をしております。この「医療センター・医師会連絡協議会」の取組みの中で、地域医療の質の向上を目指し、船橋市医師会・船橋市立医療センター合同研修会を行っております。

今後もより多くの医療関係者の方に参加していただけるよう、回を重ね、地域医療の発展に貢献したいと思っております。



「腰痛診療のポイント」をテーマに開催された第140回合同研修会

## \* \* 糖尿病看護外来を始めました \* \*

### <目的>

糖尿病患者さんやご家族にとって、病気と上手につきあっていくためには、食事やインスリン注射など自己管理が必要となります。当院では、その自己管理をお手伝いするために7月より糖尿病看護外来を開設しました。

### <担当看護師>

糖尿病看護を専門とする慢性疾患看護専門看護師（曾根晶子）、糖尿病看護認定看護師（野間弘子）です。

### <ケア内容>

糖尿病専門医・指導医の指示のもとインスリン注射をしている患者さんを中心に、7月から10月末までに195件の看護相談をさせていただきました。担当看護師は、患者さんやご家族より生活についてお話を聞きながら、個々の状況に応じた無理のない自己管理を支援させて頂いております。

### <患者さんやご家族の方へ>

患者さんやご家族にとって、自分では頑張っているのになかなか血糖コントロールが改善しないなど何か困ったことがあれば、是非、当院の代謝内科医師または担当看護師へご相談下さい。担当看護師と共に、糖尿病と上手に楽しくつきあう方法を見つけてみませんか。

### 1.対象の患者さん

・インスリン注射をしている患者さん

### 2.開催日時とケア時間

- ・火曜日の11時から16時、金曜日の9時から13時半
- ・完全予約制（8人/日）
- ・初回のみ1回1時間・それ以降30分ずつ

### 3.開設場所

・C館 1階看護外来（内科外来の隣）

### 4.保険診療による自己負担料金

- ・在宅療養指導料（月1回）：1700円
- ・フットケア（月1回）：1700円
- \* 1割負担の方：170円、3割負担の方：510円
- \* ケア内容により在宅療養指導料とフットケアの両方の負担がかかる場合があります。



当院では病院ボランティアを募集しています。詳しくは、医事課まで。

# 「あなたの病気は がんです」と言われたら

第8回 公開医療講座



相談することの大切さを語る  
丸山尚嗣外科部長

10月13日(木)に市民文化創造館きららホールにて、第8回公開医療講座「あなたの病気はがんです、と言われたら～がんになったらどうするか～」を開催しました。日本人の2人に1人はがんになるといわれる時代を反映して、多くの市民の方々が聴講されました。当院の丸山尚嗣外科部長が、自身の専門領域である消化器がんのみならず全てのがん患者さんに共通する、告知を受けた後に起こる心の反応や葛藤について述べ、家族や友人など親しい人に自分の気持ちや病気のことを話すことの大切さを強調しました。また、主治医との上手な付き合い方、どうやって病気のことを調べれば良いか、がん相談支援センターの利用の仕方などについて具体的にアドバイスがありました。講演のあと、聴講していた市民の方から、がんに関するいろいろな質問や相談があり、がんと言われたときの心構えができたようです。

## 平成23年度院内各部署による成果発表会を開催!!



(出)入院退院導入の試みについて発表する  
A6病棟

当院では、4月に病棟単位等の部門ごとに、当該年度の目標を設定し、11月にその取り組みの成果の発表会を開催しています。これは、よりよい病院づくりのために、年度ごとに同じ職場で働く職員が、職種を超えて自由に目標を設定し、同じ目標に向かって取り組み、さらにその成果を病院全体で共有することを目指して平成22年度より始めた取り組みです。

今年度の最優秀賞は、A6病棟が受賞しました。主な内容は、土・日曜日の入院・退院導入の試みについてです。良かった取り組みは他の部門でも取り入れるなど、取り組みの輪が広がっていくことを期待しています。

## 看護師(正規・パート)募集

平成24年4月1日以降採用



救急医療、がん医療、  
地域医療に発展的に  
がんばっている病院です。  
一緒に働きませんか。

### 今後の試験実施予定

平成24年3月4日

詳細は当院ホームページ  
をご覧ください。か、  
総務課庶務班までお問い  
合わせください。

- 資格/看護師免許をお持ちの方又は、取得見込の方
- 募集/看護師(正規・パート)
- 休日/4週8休制(パート職員の場合は、勤務日数・時間の相談に応じます。)
- 申込期間/1月1日～1月31日まで  
(正規職員は試験・パートは随時募集)

※看護職を対象とした病院説明会を開催しています。  
当院ホームページをご覧ください。

船橋市立医療センター

電話番号 047-438-3321(代)

# 外来担当医師一覧表

平成24年1月1日現在

		月	火	水	木	金	備考	
内科	新患	櫻井 健洋	前川 祐子	下山 立志	小澤 俊	上岡 英子		
	呼吸器	中村祐之・安田直史	徳田敦子・中村純	多部田弘士・安田直史	中村祐之・中村純	多部田弘士・徳田敦子	※(火)の水本、(水)の安藤、(木)の関、下山、(金)の小林は予約患者のみ	
	消化器	水本 英明	水本英明・関厚佳	安藤健・小林照宗	水本英明・関厚佳	小林照宗・安藤健		
	代謝	岩岡 秀明	下山 立志	鶴岡 明	下山 立志	岩岡 秀明		
心臓血管センター	循環器内科	予約	杉岡 充爾 稲垣 雅行	福澤 茂 沖野 晋一	前川 潤平 稲垣 雅行	杉岡 充爾 市川壮一郎	福澤 茂 池田 篤史	心臓血管外科の手術の相談は、循環器内科でも応じます
	新患		前川 祐子	市川壮一郎	沖野 晋一	池田 篤史	前川 潤平	
	心臓血管外科	〔手術日〕	高原善治・茂木健司	〔手術日〕		〔手術日〕	午後1時30分から ※第1・3・5 高原 ※第2・4 茂木	
緩和ケア内科				〔交替医〕	〔交替医〕		午前9:00～ 予約患者のみ	
精神科		宇田川雅彦	宇田川雅彦 三根 若菜	宇田川雅彦	宇田川雅彦	宇田川雅彦	新患は事前予約が必要	
小児科		中村 公則 木谷 豊	佐藤 純一 伊賀 裕子	丹羽 淳子 小林 弘信	木谷 豊 吉田 未識	伊賀 裕子 坂井 美穂		
外科		丸山 尚嗣 唐司 則之 宮崎 彰成 〔交替医〕	渡辺 義二 佐藤やよい 山本 悠司 〔交替医〕 〔手術日〕	唐司 則之 丸山 尚嗣 松崎 弘志 〔交替医〕 〔手術日〕	田中 元 齋藤 洋茂 〔交替医〕 〔手術日〕	田中 元 松崎 弘志 宮崎 彰成 〔交替医〕		
整形外科		〔交替医〕 〔交替医〕 〔手術日〕	池之上純男 高瀬 完 〔交替医〕	三村 雅也 鮫田 寛明 新保 純	〔交替医〕 芝山 昌貴 〔手術日〕	〔交替医〕 山口 毅 〔手術日〕	予約のない患者は (月)・(木)・(金)	
形成外科		〔手術日〕	薬丸 洋秋	薬丸 洋秋	〔手術日〕	岡田 宇広		
脳神経外科		唐澤 秀治 〔交替医〕 鈴木 健也	三ツ橋茂雄 唐澤 秀治 〔手術日〕	畑山 和己 根本 文夫 唐澤 秀治	唐澤 秀治 安間 芳秀 〔手術日〕	内藤 博道 唐澤 秀治		
呼吸器外科		内田 修 一ノ瀬修二	〔手術日〕	内田 修 一ノ瀬修二	木下 孔明 〔交替医〕	〔手術日〕	(木)は内田・一ノ瀬が交替	
皮膚科		宮川 健彦 山本 洋輔	宮川 健彦 山本 洋輔	〔手術日〕	宮川 健彦 山本 洋輔	〔交替医〕	予約のない患者は (月)・(火)・(木)	
泌尿器科		武田 英男 〔手術日〕	佐藤 信夫 滝澤 一晴	〔交替医〕 〔手術日〕	佐藤 信夫 宮本 憲生	佐藤 信夫 〔手術日〕		
産婦人科		鈴木 康伸 斉藤 俊雄	森竹 哲也 〔交替医〕 〔手術日〕	斉藤 俊雄 佐川 泰一 〔手術日〕	鈴木 康伸 林 敏	林 敏 大淵 紫 〔手術日〕		
眼科		上原 七生 谷口 有子	松枝 美文 〔手術日〕	松枝 美文 〔手術日〕	上原 七生 上原淳太郎	谷口 有子 上原淳太郎	予約のない患者は (月)・(木)・(金)	
耳鼻いんこう科		〔手術日〕	伊原 史英 大塚雄一郎	伊原 史英 大塚雄一郎	〔交替医〕 派遣医師 〔手術日〕	伊原 史英 大塚雄一郎		
放射線科		青柳 裕			原 竜介		新患は事前予約が必要	
麻酔科		〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	〔交替医〕	午前9:30～11:30 予約患者のみ	
歯科口腔外科		村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行	村野 彰行		
特殊外来	女性専用(内科)	大淵 紫		古池 織恵			予約患者のみ	
	腎臓内科(内科)		〔交替医〕				午後1:30～ 予約患者のみ	
	神経内科(内科)			澤井 摂			午後1:00～ 予約患者のみ	
	スプリント外来(心外)		桜井 学				午後1:30～	
	ペースメーカー外来			稲垣 雅行			午後1:00～	
	小児循環器(小児)	佐藤純一・〔交替医〕	松本 歩美	佐藤 純一			午後 予約患者のみ (火)は第2・4	
	小児神経(小児)				林北見・牧野道子		午後 予約患者のみ 月1回	
	小児腎臓(小児)				秋岡 祐子		午後 予約患者のみ 月2回	
	小児外科(外科)				齋藤 武			
	脳神経内科(脳神経外科)			横田隆徳(3ヶ月に1回)		橋本 祐二	午後1:30～ 予約患者のみ	
バリエーション(脳神経外科)		唐澤 秀治		唐澤 秀治				
膀胱外来(泌尿器科)				北村 温		第3木曜日の午後		

担当医師は、状況により変更することがありますので、ご了承ください。